

人間ドックなどで行われる胃の透視の検査です。バリウムを飲んで、胃の粘膜を観察し、潰瘍やポリープ、癌を発見するための検査です。

よりよく粘膜を観察するため、腹部を強く圧迫することがあり、腹部大動脈瘤のある患者さんでは、破裂するリスクがあります。



心臓血管外科★健康講座

検診では「バリウム」を飲んで胃の透視が行われることがあります。腹部大動脈瘤など、お腹に動脈瘤がある場合、危険なことがありますので、注意が必要です。



胃の透視の画像の一例

岩手県立中央病院心臓血管外科では、身近な医療の情報を解説した健康講座を県民の皆さんに提供します。第15号は「胃の透視」です。

人間ドックなどを受ける際、胃や食道、十二指腸を調べる方法には、バリウムを飲んでX線透視を行う場合と胃カメラを行う場合があります。最近では胃カメラを選択する場合も増えているようです。人間ドックによっては希望者は胃カメラ、通常は胃の透視を行うという場合もあります。検査法の長所、短所についてはこの健康講座では深く触れません。受診時に担当者の説明をよくお聞きください。

今回、健康講座で「胃の透視」を取り上げたのは、**腹部に大動脈瘤がある方がこの検査を受ける危険性**についてお知らせしたかったからです。



胃の透視の検査では、胃の粘膜面をよく観察できるように、左の写真のように**お腹を圧迫すること**があります。かなり強めに押すこともあり、胃下垂の方などでは下の方を押すこともありえます。そのまさに圧迫される場所に腹部大動脈瘤があると、**検査中に破裂させる危険性**があると思われるのです。

当科でそのような患者さんを経験したわけではありませんが、胃の透視の検査を実際に受けると、腹部大動脈瘤を破裂させる危険性は十分にあると考えています。

人間ドックの検査の順番で、たまたま腹部エコーが先に組まれていて、腹部大動脈瘤に気がつけば未然に回避できますが、そうでないと知らずに検査をされて破裂してしまうかもしれません。

腹部大動脈瘤のしやすい方としては、**高血圧の方、喫煙者**となります。もし、心配な方は、まず**腹部エコーを先に行って**動脈瘤がないかチェックしてもらうこと、また、胃の検査は**胃カメラ**にしてもらうことをお勧めします。

岩手県立中央病院心臓血管外科

健康講座 第15号